4 周辺環境への影響

騒音・振動

地上との連絡路が必要なジャンクションやインターチェンジ付近では、自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

騒音の状況

中央道とのジャンクション、東八道路インターチェンジ、国道20号インターチェンジ周辺の騒音は、16地点で平日と休日それぞれ昼間と夜間で測定しています。測定結果の一例を右に示しています。

測定場所		騒音レベル LAeq(dB)
北野4丁目(中央道)	昼間	57
	夜間	53
西つつじヶ丘3丁目(甲州街道)	昼間	71
	夜間	70
牟礼2丁目(東八道路)	昼間	70
	夜間	67

※ 平日の観測値
dB(デシベル):音や振動の大きさを表す単位

出典:東京都環境局資料より作成

A インターチェンジを設置しない場合

中央道とのジャンクション部では、連絡路等を走行する自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

B 東八道路と国道２０号に東名・関越両方向へ行き来できるインターチェンジを設置する案

中央道とのジャンクション部の他、国道20号及び東八道路のインターチェンジの出入り口付近において、走行する自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

C 東八道路南側に東名方向、国道２０号北側に関越方向へ行き来できるインターチェンジを設置する案

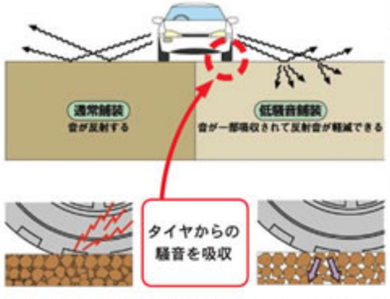
中央道とのジャンクション部の他、国道20号北側及び東八道路南側のインターチェンジの出入り口付近において、走行する自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

D 東八道路南側に東名・関越両方向へ行き来できるインターチェンジを設置する案

中央道とのジャンクション部の他、東八道路南側のインターチェンジの出入り口付近において、走行する自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

沿道環境に配慮するため、必要に応じて環境施設帯の設置、遮音壁の設置、騒音低減効果のある舗装等の保全対策を実施します。

騒音低減効果のある舗装



自動車の走行による騒音を吸収する効果があります。

遮音壁、環境施設帯の事例

遮音壁の設置により、騒音を低減します。

環境施設帯の事例

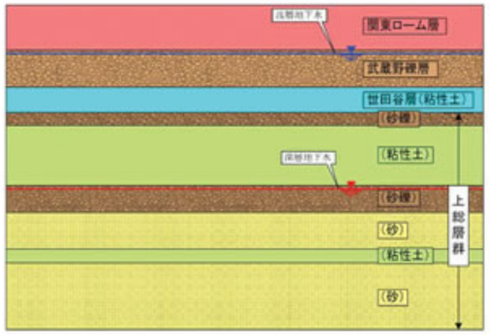
沿道への騒音を低減するとともに、緑豊かな道路空間の創出の例。

地下水

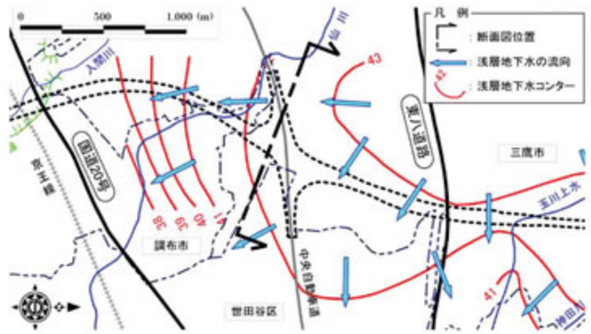
地質と地下水の状況

地下水は、地下約10m付近の武蔵野礫層の中と、地下約30m付近の上総層群の砂礫、砂層の中に存在しており、それぞれ浅層地下水、深層地下水と表現しています。浅層地下水の流向は、中央道より北側では西から東方向、中央道より南側では北西から南東方向に向いています。 また、深層地下水の流向は、南東から北西に向いており、非常にゆっくりと移動しています。

地質断面図（中央道とのジャンクション付近）



浅層地下水の移動方向（冬季観測データより）



A インターチェンジを設置しない場合

中央道とのジャンクション部では、工事(開削等)によって、地下水の流れに影響を与える可能性があります。

B 東八道路と国道２０号に東名・関越両方向へ行き来できるインターチェンジを設置する案

国道20号の南側から東八道路の北側区間では、工事(開削等)によって、地下水の流れや玉川上水に影響を与える可能性があります。

C 東八道路南側に東名方向、国道２０号北側に関越方向へ行き来できるインターチェンジを設置する案

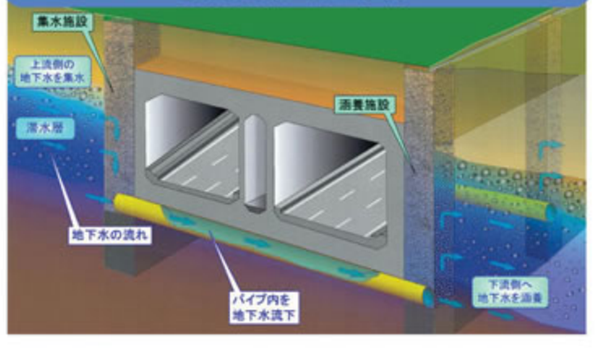
国道20号から東八道路の区間では、工事(開削等)によって、地下水の流れに影響を与える可能性があります。

D 東八道路南側に東名・関越両方向へ行き来できるインターチェンジを設置する案

インターチェンジを設置しない場合より、東八道路南側へ工事区間が長くなり、地下水の流れに影響を与える可能性があります。

地下水への影響が予測される場合には、適切な対策工法を検討し実施します。

地下水対策工法の事例



地下構造物の建設等により、地下水の流れを阻害する場合に、上流側の地下水を集めて、通水施設を通じ、下流側へ流れるようにして、地下水の流れを確保します。